厳島神社

この神社を訪れる人の多くは、緑の生茂る弥山を背景に宮島沖の水の中にそびえる赤い鳥居の象徴的なイメージに覚えがあるのではないのでしょうか。それでも、本物の神社を見ると、写真で知っている人であっても畏敬の念を抱きます。この神社は、1996年に世界遺産に指定されました。

厳島は37棟の建物からなる本社（境内）と、海岸の両側にある19棟の建物を持つ摂末社を合わせた神社の集合です。厳島はもともと西暦593年に建設されたと言われており、武将平清盛が1168年からさらに神社に手を加えました。本殿は後に改装され、鳥居と反橋も16世紀後半に毛利家によって再建されました。厳島は文字通り「礼拝の島」を意味し、宮島そのものが何世紀にもわたって神の住まう所として崇拝されてきたことを反映しています。

厳島とその鳥居は、その下を波が寄せては返す様子が、日本独特の光景です。満潮時には、この神社全体が水面に浮かんでいるように見えます。干潮時には、厳島はまた異なった、しかし同様に魅惑的な姿を見せます。周囲の浜辺に「鏡」の役割を持つ池が3つ現れ、また、訪問客は鳥居のすぐそばまで歩いて行くことが可能になります。